

# 泡瀬・美ら島便り



内閣府 沖縄総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所 中城湾港出張所

平成19年12月10日発行

## 日本一環境にやさしい「泡瀬・美ら島づくり」に期待!

中城湾港(泡瀬地区)人工島事業の埋め立て工事の進捗状況や環境保全への取組状況など最新情報を広報する「泡瀬・美ら島便り」への投稿の機会を頂き厚く感謝いたします。

さて、沖縄市東部海浜開発計画(泡瀬地区)は本島中部圏の振興・活性化の起爆剤として20年あまり前から沖縄市を中心に構想され、新たな雇用の場を創出し発展に寄与することを目的に沖縄市泡瀬地先海域に人工島を造成し展開されている。造成にあたっては、周辺環境への影響負荷、希少種の生活圏など充分な配慮がなされていると認識している。また、中城湾港(新港地区)は、沖縄県における物資の円滑な流通を確保する流通拠点港として、県土の均衡ある発展に資する流通加工港湾を目的に整備され、沖縄自由貿易地域の指定を受け県・市は企業誘致を積極的に行っている。

日本で唯一指定されたFTZの区域が有効に機能することが県経済の発展になり、そのためには東ふ頭への船舶の入港可能が不可欠となる。東ふ頭の航路浚渫で発生する土砂は、泡瀬地区人工島の造成に有効活用している。平成22年に予定されている東ふ頭への航路の暫定供用を熱望している。

沖縄市東部海浜開発計画は、中城湾の静穏な海域の特性を活かし、『国際性』『海洋性』『市民性』をキーワードに、海に開かれた国際交流リゾート(マリンシティ)を目指しており、本島中部圏経済の活性化と新たな雇用の場の確保による地域の発展に寄与することを目的とした事業の推進と早期実現を期待している。



中城湾港運株式会社  
代表取締役社長

桑江 浩

## 工事の進捗状況について

今年度の工事は、右図の様に外周護岸の整備と仮設航路の浚渫を行います。

これにより今年度末には、第I区域(96ha)の約72%の範囲(69ha)を囲む護岸が概成する予定です。

工事は順調に進んでおり、工事の実施にあたっては、引き続き工事から発生する海域への汚濁防止対策などの環境保全に万全をつくしてまいります。



### ■今年度工事の進捗状況

施設名称	整備予定延長	11月末迄に概成した延長
C護岸	170 m	約 55 m
D護岸	311 m	約 167 m
岬護岸	75 m	約 0 m
イ・ニ中仕切護岸	839 m	約 109 m
仮設道路	199 m	約 128 m
仮設航路	318 m	約 100 m

### ■イ中仕切護岸のようす





## 比屋根湿地の環境保全

沖縄県総合運動公園に隣接する場所に比屋根湿地があります。広さ約4万m<sup>2</sup>のこの湿地場所は、道路の建設などにより湿地に姿を変えました。現在の比屋根湿地は、植栽による<sup>写1</sup>マングローブ林が発達し、\*汽水域特有の多様な生物が生育し、<sup>写2</sup>鳥類の採餌や休憩の場として貴重な空間を形成しています。

しかし、現在は土砂の流入により、干潟の約半分が<sup>写3</sup>陸地化し、ゴミの不法投棄や<sup>写4</sup>汚水の流入など、環境の悪化が懸念されています。そこで沖縄県では、比屋根湿地の環境改善に取り組む予定となっています。

\*淡水と海水がまじり合った塩分の少ない水域



■写1



■写2



■写3

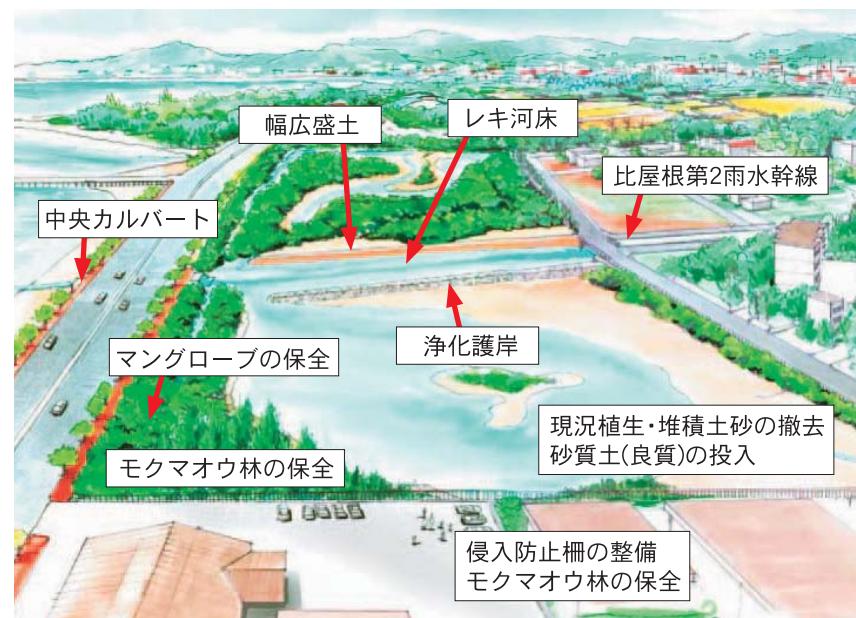


■写4

### 環境保全後の比屋根湿地（イメージ）

この比屋根湿地は右図のように、現在陸地化している場所に浄化池を作り、比屋根湿地全体の浄化能力を高めると共に、生物の保全を図る事を考えた結果、右図のイメージのとおり計画されております。それと同時に現在湿地内に生育している生物の保全を図ります。

また、東部海浜開発の事業者である沖縄市においては、比屋根湿地へ流入する負荷を低減するため下水道の普及および接続率向上等にも取り組み、泡瀬地区の総合的な環境保全を図っていきたいと考えています。



■ご意見・お問合せは 内閣府 沖縄総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所 中城湾港出張所  
〒904-2162 沖縄県沖縄市海邦町3-25 TEL (098)938-9640 HP <http://www.dc.ogb.go.jp/nakagusukuwankou/>